

れば、熱帯降雨林では有用材を育てることは出来ないのではないかと思う次第である。

結 論

熱帯降雨林に植林可能なユーカリは数種類あるが、植栽後1年で、有望とみられるものは、*E. grandis* と *E. urophylla* である。*E. grandis* は硬度の異なった土壌ではほぼ似通った生長を示し、*E. urophylla* は土壌硬度の低いところでは良好な成長を示すが土壌硬度の高いところでは極端に成長が落ちる。

今後の熱帯のユーカリ植林では交配雑種の育種とさし木による苗木の大量生産の開発が中心となるだろう。

[参考文献] 1) 米川誠一・宮脇 繁: ブルネイのアカシア・マンギューム、熱帯林業 No 68: 12~ , 1983 2) 原 敬造: 熱帯地域における若干の造林用早成樹について、熱帯林業 No. 39: 13~ , 1976 3) CHAPERON, H.: Amelioration Genetique des *Eucalyptus* Hybrides au Congo Brazzaville. Proceedings of Third World Consultation on Forest Breeding, Canberra 1976 4) CAMPINHOS, E., Jr. and Y. K. IKEMORI: Tree Improvement Program of *Eucalyptus* spp. Preliminary Results. 同上, 1976 5) CATINOT, R.: En Afrique Francophone L'avenir Forestier Tropical se Jouera dans le Cadre du Monde Rural. Boiset Ferets des Tropiques n° 203: 7~42, 1984

新刊紹介

◎砂漠と乾燥地 (Farouk El-BAZ 編著; Deserts and Arid Lands. Martinus Nijhoff Publishers 222 pp. 1984)

つい最近、私はアフリカの半乾燥地を訪れる機会があったが、空から見た砂漠地帯の広さと何物も寄せつけない厳しさをまざまざと見せつけられた思いがした。この本の編著者であるエル・バズ氏も砂漠や乾燥地の調査を地上からおこなうことの困難さを指適するとともに、人工衛星等によるリモートセンシングを利用すれば砂漠の地形、構造、分類等の観察を容易になしうると解いている。本書の構成は世界的な専門家11氏がランドサットやスペクトル測定によりサハラ、アラビア、インド、オーストラリア、中国、北アメリカの砂漠や乾燥地についての調査結果を報告したもので、多数の図版、写真、文献等が載せられている。原著がフランス語であったものは、スミソニアン研究所の地球・惑星研究室のスタッフが英語にはん訳するなどの苦勞も読みとれる。リモートセンシングの研究者のみならず、地理学、砂漠問題に興味のある人にとっても知識をかなり豊富にしてくれる著書といえる。(内村悦三)